

「東京都教職課程カリキュラム」の策定について

1 ねらい 東京都の教員を目指す学生が採用段階で身に付けておいてほしい資質・能力を具体的に各大学へ提示し、採用後の研修内容等との連携をより深めていくことで、「養成」「採用」「研修」段階が一体となって若手教員の人材育成を図る。

2 策定の背景

教員の大量退職・大量採用

教員の経験年数の均衡の崩れ

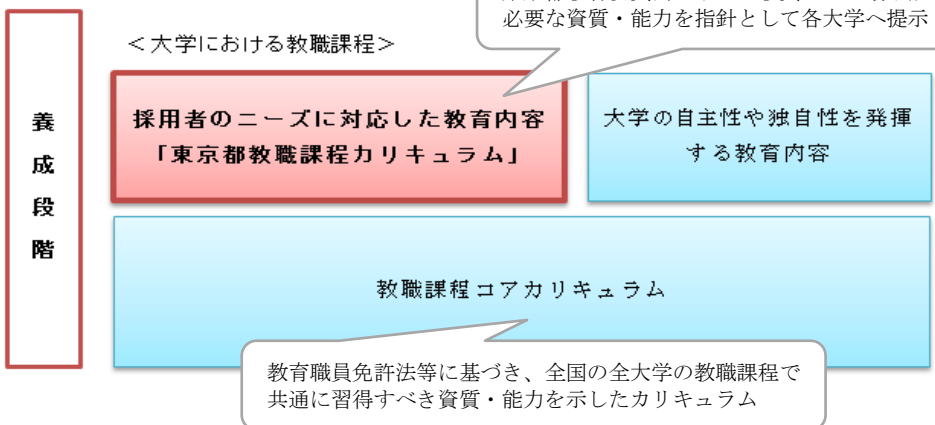
「養成」「採用」「研修」を一体として若手教員の資質・能力の向上を図る必要

平成 22 年 「小学校教職課程カリキュラムについて」の作成

- 学習指導要領の改訂
- 教育公務員特例法の改正
- 「教職課程コアカリキュラム」（文部科学省）の作成
- 「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」（東京都教育委員会）の策定

平成 29 年 「小学校教職課程カリキュラムについて」の見直し・改善

3 本カリキュラムの位置付け



4 策定のポイント

■小学校教員に限定していたカリキュラムの対象を全校種の教員へ拡大

■コミュニケーション能力や教育公務員としての自覚に関わる内容を充実

■東京都の教育課題に関わる内容を充実

- ・世界で活躍できる人材の育成、道德教育の充実、キャリア教育の充実、防災教育の充実、自殺防止、不登校対策、オリンピック・パラリンピック教育の推進など

5 本カリキュラムの構成

はじめに 「東京都教職課程カリキュラム」の策定に当たって

I 東京都教職課程カリキュラム

- 領域 1 「教員の在り方に関する領域」
- 領域 2 「各教科等における実践的な指導力に関する領域」
- 領域 3 「教育課題への対応に関する領域」
- 領域 4 「学級経営に関する領域」

○「教職課程コアカリキュラム」及び「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」と本カリキュラムとの関連

- II 東京都教育委員会における教育課題への対応方針と主な取組
- III 教育実習
- IV 教職実践演習チェックシート
- V カリキュラム編成モデルの例示
- VI 資料